

## 風の道

### 技術概要

都市の土地・建物等の形態をコントロールし、都心と郊外の気温差などで生じる風を活用することによって「風の道」を形成し、都市内に新鮮な大気を導入する。

### 新都市での導入効果について

夏季のヒートアイランド減少の緩和や汚染大気の滞留緩和に寄与する。

### 導入における課題（ 対応策 ）

都市気候緩和システムは、導入可能性の検討のため、都市の表面温度、気温や風の流れといった、基礎的な現状の把握や調査等が必要。また、特定の事業により導入するというより、きめ細かな都市づくり施策の展開の中に少しずつ盛り込まれていくという性格のものである。効果を観測しながら、長期的に施策を進めていくことが必要であり、地域の気候に対応した設計が重要である。今後、都市計画論に展開させるため、どの程度の量をどのような分布状態で緑化を進めれば良いかについての定量的知見の集積が必要。

都市計画の前の段階で、ある程度の期間をかけて地域の都市気候を調査する。

### その他（ 導入状況・技術開発等動向・将来見込み等 ）

ドイツ シュツットガルト市等、欧米では都市計画レベルでいくつかの導入事例がある。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成